

和歌山県海草郡紀美野町

地区×学生による観光・文化・交流情報発信と 棚田の再生



【活動の基本情報】

参加学生数 20 名

(1 年生：6 名、2 年生：5 名、3 年生：4 名、4 年生 5 名)

活動期間：2018 年 4 月～

担当教員：佐野楓

1. 活動実施の経緯

小川地区は公民館を中心に文化活動が盛んである。伝統芸能の「坂本獅子舞」「梅中傘踊り」等の活動に携わる方々が多く、ボランティア精神も旺盛で、地域活動に非常に熱心な土地柄である。しかし、高齢化や少子化が進み、地域活動への参加者が徐々に減少しているのも現状である。他地区と比べ、比較的移住者が多いため、地域活動においても相互協力を行っている。この「地元目線」と「外の目線」の良いところ取りで、地域の活性化に繋がりたいと考えている。

2. 活動の内容

今年度の活動では、棚田をはじめとする小川地区との関わり方を再確認した。LIP から LPP へと制度が変わった中で、従来のように地域から提案いただく形ではなく、学生が自ら進んで活動内容を決める仕組みづくりを行った。昨年度の活動で築いた地域との繋がりのもとで地域の方々との意見交換を行い、来年度以降の活動方針を決定した。また、棚田での活動やイベントへの参加を通して、役場の方や地域おこし協力隊の皆さんをはじめ、中田の棚田再生活動に携わっている方々との交流を行った。そのほか、次年度の中田の棚田再生プロジェクトの活動方針「見せる」を踏まえ、ビューポイントに設置する看板を丸太から作成し、景観づくりに貢献した。次年度以降は、「棚田が抱える課題の解決に向けて」を活動方針として掲げ、地域の方々と協力しながら取り組むとともに、紀美野町小川地区の魅力を発信していけるような活動を行っていく。

3. 活動を通じて

今年度の活動では、地域の方々との話し合いの中で、様々な課題が浮き彫りとなった。その中には、私たちの目には見えなかったものも見受けられた。現地で活動を行うだけでなく、話し合うことの重要性を実感した。本年の経験を活かし、次年度以降の活動を行っていききたい。

4. 成果ポスター

きみの
紀美野町小川LPP 地区×学生による観光・文化・交流
情報発信と棚田の再生

ここが 私のアナザースカイ。

紀美野町小川地区 小川LPP

和歌山県の北部に位置する紀美野町。その中でも壮大な自然に溢れる小川地区。中田の棚田をはじめとした観光地が存在します。近年、その自然に魅せられ、多くの移住者が訪れるようになっていきます。

私たちは3回生4名、2回生5名、1回生6名で活動しています。学生視点での地域振興を目標とし、現地の方々との意見交流などを行いながら、地域の課題解決に向けて活動しています。

2022年度の主な活動

- 中田の棚田 再生活動
棚田内の草刈り、不要な木材や竹の撤去、焼却など、景観維持のための活動を主に行いました。
- イベントへの参加、運営補助
田植えイベントに参加しながら、広報用の写真を撮影するなどイベント運営の補助を行ったほか、リポートレッキングや棚田deキャンプ等のイベントにおいても、運営補助を行いました。
- 中田の棚田 看板制作
棚田を一望できる場所に設置する看板を制作しました。切り出した丸太をバーナーで焼いて防腐処理した後、スプレーで文字を塗装しました。
- 宿泊研修
古民家を改修した宿泊施設「風の森」で宿泊研修を行いました。地域の方々と意見交換を行い、今後の活動方針に関して話し合ったほか、メンバー間の親睦を図る機会にもなりました。



2023年度の活動方針 ～棚田が抱える課題の解決に向けて～

- 景観維持への対策
棚田を一望できるビューポイントへのゴミの投棄が以前からの問題となっています。そのため、観光学部での学びを活かしてゴミを減らす工夫を考え、実行し、ゴミの投棄ゼロを目指していきます。
- 棚田における作業人員不足の解消に向けて
現在、棚田では、農作業を行う人員が不足しています。そのため、新しい事業を始めることが難しくなっています。また、新たな作業人員の育成に時間を割くと、農作業が滞り、景観に支障が出るのが考えられます。そこで、LPPが実際に行っている農作業等のマニュアルを作成し、作業の効率向上と作業人員不足の解消を目指します。

小川LPP SNS



Twitter
Instagram
Facebook

合同報告会 当日の様子

和歌山県海草郡紀美野町小川地区

テーマ：地区×学生による観光・文化・交流情報発信と棚田の再生

所属 LPP 以外の活動について触れる機会が少ないため、どこのブースも人が溢れていたように思えます。紀美野町小川 LPP では、報告会への参加人数が少ない分、ポスターのデザインや使用する写真にこだわりを持ち、ポスター用の写真撮影を兼ねて小川地区に足を運んでいるメンバーもいました。

発表は時間通りスムーズに行うことができ、コメントでは、「地域と学生が協力し、互いに主導してプロジェクトを進めているのが魅力的」などといった高評もありました。一年間の活動記録を自分たち自身も振り返ることができる良い機会になったので、来年度も積極的に活動していきたいです。

